

「あなたのそばで県議会」（北薩地域）会議録

- 開催日時 平成29年11月11日（土）午後1時30分～午後3時30分
開催場所 出水市中央公民館（出水市文化町）
参加者 一般県民約100名，県議会37名
内容 ①議会活動の説明
②「あなたの考える北薩地域の振興策」について意見交換
- ・全体会
 - ・分散会 第1分散会「県民の生活，暮らし ①」
第2分散会「産業活動の振興」
第3分散会「県民の生活，暮らし ②」

○意見交換会で出された質疑の概要

<全体会>

団体A

県立養護学校の食堂及び厨房の整備について。

①生徒数増加に伴い，食堂に収容しきれず，一部教室で食事を摂っている。運搬時の安全性，衛生面も心配。空調も整備されていない。増築，その他の対策を考えていただきたい。

②厨房はスポットクーラーがほとんど機能せず過酷な環境で調理。なかなか予算が付かないとのことだが，スピード感を持って学校現場の安全，衛生の観点から改善についてご理解と御協力をお願いしたい。まずは現場調査を早急をお願いしたい。

（堀口議員）

県立養護学校の食堂及び厨房の整備についての改善要望。

給食を実施している特別支援学校では，児童生徒は食堂において給食を摂っているが，車いすの移動や医療的ケアなどのスペースを十分に確保する必要性から，一部の児童・生徒等が教室で給食を摂っている学校もある。

なお，給食の運搬は児童生徒の実態に応じ，教員の指導の下で簡易ワゴン車やエレベーターを使用している。食器かごカバー等の利用も現在検討を行っているところ。

また，特別支援学校の食堂と厨房にはそれぞれ空調設備を設置しているが，更新時期を迎えているものもあり，設備の稼働状況も確認しながら，必要な対応をしていきたい。

今後とも安全面，衛生面に配慮し，対応について引き続き指導助言していきたい。

高校生B

保育士を希望している人は多いが、勤務時間等労働環境の問題で保育士になれていない人がいる。

そのため保育士が不足し、待機児童が解消されず、母親の就労の障害になっていると思う。

保育士の労働環境を改善することにより保育士を増やすことで、子どもを安心して預ける場所ができ、女性の就労に対しても余裕を与えられると思う。

子育て支援が充実していることは県外からの移住希望者に対するアピールにもなると思う。

(堀口議員)

待機児童数、平成29年4月1日現在354名、昨年度よりも59名増。保育士の有効求人倍率、平成29年9月現在で1.7倍と上昇。早急に保育士を確保する事業等が必要であろうかと思う。

待機児童の解消は各市町村において、子ども・子育て支援事業支援計画に基づき、保育所等の定員増を図っており、県では必要な支援や助言等を行っているところ。

保育士確保については、復職を希望する潜在保育士に対し、最新の求人情報の提供や復職した保育士の事例紹介等を行う研修会のほか、実際に保育現場を体験する講習会を開催することとしている。

また、保育士等の処遇改善を図るため、今年度から「魅力ある保育環境構築事業」に取り組んでおり、処遇改善セミナーや給与実態調査のほか、社会保険労務士などの専門家による個別指導・助言などを通じて、保育士等がやりがいを持って働き続けられる職場環境づくりを促進することとしている。

さらに、本年3月には、働く女性が能力を発揮していきいきと活躍でき、男女がともに働きやすい環境づくりに取り組むため、「鹿児島県女性活躍推進計画」を策定したところであり、今後とも、同計画に基づき、女性がいきいきと仕事ができる社会の実現を目指す。

高校生B

若者の多くは仕事を求めて県外へ出て行く。

県内に仕事がないだけでなく、単に県内の就職情報を知らないだけだと思う。

出水にあるマルマエという企業が、大きくなりつつあるようだ。地元企業の情報についてあまり宣伝されていないように感じる。

若者は県内にしたい仕事がないと言うが、具体的にそれはどんな仕事なのか、企業は知らないと思う。

就きたい仕事に関する意見交換が有志の社会人と若者の間で開かれているが、県もそのような会を開いてはどうか。

そして、県外の人達にも鹿児島の仕事に関する情報をさらにPRすべき。

(伊藤議員)

県内経済が持続的に発展し、地域の活性化を図るためには、まず若者の県内定着、それから人材の確保が不可欠。そのためには、行政において、新規学卒者に県内企業への理解と認識を深めて貰う取り組みを進めるとともに、県内企業・団体においてもそのような機会を積極的に活用して、効果的に自社の魅力を発信する取り組みを推進してきているところ。

県内企業の魅力について、なお一層理解を深めていただくため、県では、インターンシップなどキャリア教育の推進や、関係機関と連携した新規学卒者や若者向けの合同企業説明会等を開催しているところ。

また、今年度から新たに高校等に対する県内企業の魅力説明会や保護者向けの県内企業説明会を開催しているほか、県内外に進学した大学生等に対し、県内企業の情報を提供するWebサイトの運用を開始した。ご覧頂きたい。

高校生B

Uターン希望者等への優遇措置はないのか。
例えば、住宅費の助成とか。どこかに、広報しているのか。

(伊藤議員)

鹿児島県ではUターン希望者等の県内就職を促進するため、平成18年度以降、本庁及び東京、大阪の県外事務所に「ふるさと人材相談室」を設置し、Uターン希望者及び県内企業の登録、情報提供や職業相談・職業紹介を実施しているほか、例年、夏の帰省時期を考慮して、8月に「Uターンフェア”かごしま”」を開催している。

また、大都市圏にある大学と本県において、就職に関する支援協定を締結し、本県出身学生等のUターン就職の促進を図っている。

県では平成28年度から、大学等卒業後、県外で就業・居住している満35歳未満の社会人が、Uターンして県内企業等に就業するなどの要件を満たした場合、大学等在学時に借り受けた奨学金の返還を支援する「大学等奨学金返還支援制度」を創設し、運用しているところ。

団体A

ご回答いただいたが、実際、養護学校の現状は毎日のこと。特に夏場になると非常に厳しい環境、衛生問題も含めて早く何とかしていただきたい。
堀口議員から回答いただいたが、できたらタイムテーブルも含め、どの時期にどう動いていただけるか聞きたいので、よろしく願いたい。

(堀口議員)

出来るだけ早く現場を見させていただくのが一番的確に判断できていると思うが、われわれ議員だけでなく、当然教育委員会とも日程等決めて調べさせていただきたいと思っている。

<第1分散会>

県民C

全体会の中で、伊藤県議から県の女性活躍推進計画なるものが示されたが、もう少し具体的にどのような形で取り組んでいかれるのか。

(長田議員)

今年度の11月の時点で鹿児島県が作る活躍に対するビジョンの取りまとめをしており、パブリックコメントをこの11月から11月末までしている。

県民の皆様の声を聞いて、骨子案ができ、この間、9月議会で説明があり、それをもう少し数値目標、女性の就労、あるいは、女性活躍のための地域のこと等を含め、具体まで詰めている状況で、12月の上旬ぐらいには提示できる。

(伊藤議員)

補足になるけれども、県の施策の方向性としては、女性活躍の機運醸成と企業等における見える化という形で進めている。

もう1つは女性の能力発揮のための支援。女性のキャリア意識の向上、ネットワークづくりの支援を行う。離職した女性の再就職支援を行う。新たな起業や新規就業に対する支援を行うこと。キャリア教育の推進を行うことを施策として掲げているところ。あと、女性経営者、女性の経営の参画の促進及び各種方面への雇用促進を図っているところ。

(まつざき議員)

女性活躍推進計画、10年間の計画で県が今、作って進めようとしている。女性が活躍といっても、今の鹿児島もそうだろうが、全国的にもなかなか力があっても、それを発揮して活躍できる環境でない。子育ても家事も介護もどこでも女性が担っている部分が多いと思う。

それを女性だけで担うのではなく、自分の奥さんを家事だけでなく、持っている力を発揮して活躍させてあげたいと思えば、男性も休みを取って、介護とか育児に大いに携わらないと、女性が十分に活躍できない。

これは、女性のためだけではなく、男性も女性も家のこと社会のこと、会社のこと仕事のことを一緒に共に頑張り支えながら社会を作っていこうという立場なので、中身は目標として男性の育児休暇取得率を引き上げというものも含まれている。そういう主旨の計画とあっていただければ。

柳座長 男女共同とは言っても、働く社会の環境をそう簡単に変えることは難しいとは思いますが、気の長い取組として捉えているので、これからも引き続き、県民の皆様のご意見を伺いながら、少しでもいい計画となるようにやっていきたい。

県民D

私も阿久根市で会社を経営している。

副知事が女性ということだが、副知事のお話をあまり聞いたことがない。女性目線、視点で、副知事から各地域においてお話をいただくことはできないのか。

私は阿久根市で女性会をしているが、先日もそういうお話しが出た。一方で、「えっ副知事さん、女性だったの?」という話も出たくらい浸透していないのがなぜなのかなと感じる。できれば、お忙しい立場と思うが、各地域に行って、いろんな御指導をいただけないか、講演いただけないかなというお願いもあって今日はまいった。よろしく願いしたい。

(柳座長)

私も初めての女性の副知事が鹿児島にみえたということで、大変、喜んだ。限られた4年間、国で仕事をしてた方が折角鹿児島に来てくださったので、いろんなところに出かけて、小林副知事には話をしていただきたいと思う。

今日またこのような場で、県民の皆さんからそういうご要望が出たということ、小林副知事にはもちろん、三反園知事にも要望していききたいと思う。

小林さんが最初、「鹿児島県というところは、なかなか男女共同参画社会については、まだ、厳しいようですね」というお話もされた。確かにそうだと私も話した。いろんなところにぜひ出かけていってくださいと私も最初要望した。副知事が動ける、いろんな要望があったときにぱっと応えていける環境を作るのが私ども議会の、議員の仕事でもあるかと思うので、そういうご意見をつないで、いろんなところに行き話していただけるよう頑張っていく。

(伊藤議員)

私も出水地区の女性代表の方から「小林副知事が来てくれない」という話を聞いたことがあった。出水・阿久根、阿久根には中村素子議員、女性の議員がいらっしゃるの、出水地区全体でそういった会ができるよう努力してみたいと思う。堀口議員もいらっしゃるの、3人で協力してそういう会ができるように行ききたいと思うので、その際は、ここにいらっしゃる女性の方、もちろん男性の方も来てくださるようお願い申し上げます。

県民E

原発事故時の避難については、しっかりとしたマニュアルができていると思う。我々は高尾野に住んでいるので、水俣市あるいは霧島市の方の避難場所もある程度把握している。水俣市議会議員から、「出水市から「避難の時にはよろしく」という言葉を聞いていない。」「市議会の中でも受け入れる雰囲気にはなっていない。」「『スクリーニングしましたよ。』と言われても困るという雰囲気。」という話を聞いた。

出水市の担当は、「県の方が何か言ってこない」という話。

県も市に「ちゃんと話し合いをしておきなさい」と言った方がいい。

(柳座長)

原発事故時の避難，これは鹿児島県民だけではなく隣接する熊本県，宮崎県も不安を持っていらっしゃると思うので，今言われたご意見はごもっとも。

まずは，我が県が主導権を持って，きちんと市町村に説明をしておかなければならないことだと思う。

(松田議員)

大変ごもっともなお話しと承っている。

今，専門委員会を知事が持っており，今度話し合いがあるが，各専門の先生方の話を我々は傍聴する立場。その議案の中でも，やはり，避難のことは話題になる。

今のような，水俣に行く計画なのに，地元の水俣がよく分からないというのは，大きな問題だと思うので，それはしっかり持ち帰って対応させていただきたい。

(上山議員)

原発に関しては，訓練，避難，大事だと認識しており，常に質問している。

専門委員会では，避難の実効性という大きな課題を議論されている。

我々の会派では，避難訓練を検証しており，30キロ圏内にいる実際に避難される方々は県をまたぐので，宮崎あるいは熊本とも広域的な連携を図るための協議会を作ってくれと要望している。

県は，「常に連携している」と言うが，年に1回程度の話し合いでは，実効性はないと思うので，訓練でも共同して参加していただくことを要望していきたい。

検討委員会の方にも専門委員会の方にもそういう意見が反映するようにつないで，県議会の場でも質問しているところ。

今日，お話を聞いたので，次回の議会では意見反映に努めていきたい。

(伊藤議員)

私も今の話は初めて聞いたが，市議会、県議会同士でも熊本県議会ともそういう関係ができていないというのは事実だと思う。

水俣市には吉永議員という県議会議員がおり，私も顔見知りでもあるので，まず，県議会のレベル，県と県の行政のレベルでも，再度，話し合いを煮詰めていただいて，防災訓練が毎年2月位にあるので，ここも含めた上で，水俣とも連携を。

私が議員になってから防災訓練が2回あったが，県境をまたいだ訓練というのはまだない。北風が吹けば北に避難という部分もあると思う。熊本県との連携，出水市と水俣市との連携を高めていくのが大切だと思う。

(井上議員)

今のご意見をお聞きして「なるほど」と私も思ったところだが，計画としては，どこに避難するんですよと言われていたが，実際にその人達と話したこともないし，どういう所なのか，どういう形になるのか，検討する機会が全然ないので，話し合いの場，お互いの地域が原発をきっかけとして交流する，あるいは，お互いを

知り合うという場を持つというのも、確かに大切だなと感じた。
そういうことを議会の場で執行部にも意見を出してみたいと思う。

県民F

連日、トランプ大統領が発信しているが、北朝鮮との問題。ICBMが飛んできたら、県議会としてはどういう方向に持って行こうとしているのか。
難しい問題だと思うが、北朝鮮のロケットはまともじゃないと思っている。
もう、原発の周辺はどこも用心しとかなないといけないという感じ。
今、私は、市内の大きな橋の近くののだが、そういうニュースがきたらシェルターがないので、橋の下に入っても爆風でやられてしまうなど。
大きな地下室はない、地下鉄もない、むしろ福岡あたりに住んでいると、一番、地下のあたりに逃げ込むのが早いのかなと、非常に危惧している。
県議会としては、どう捉えるのか。これは非常に難しい質問。私も難しいと思っているので。できるだけのこと結構。

(柳座長)

今出た問題は日本中が関心を持って見ていると思っている。
外交・防衛については県議会には会派があり、分かれているので、会派によって、異なった意見があろうかと思っている。
安倍首相が、アメリカもそうだが、圧力を掛けて北朝鮮を懲らしめてやろうということがあるかと思うが、各会派意見が異なっているので、この場でどうこう申し上げることは非常に難しいのかなと思っている。
ただ、「原発にロケットが落ちたら、もう終わりだよ」というようなことは、私どもも認識はしている。
まず、先に狙うのが原発の施設だろうなということは、よく言われるわけだが、これについてはこの場で各議員が考えを述べるということは、なかなか難しい。
県議会としても北朝鮮のこの問題について、ロケットの問題については、決議文を挙げている。今、手元にその決議文がないが、決議はしている。そういった思いは皆同じということ。
ただ、その手法が政党・会派によって違うということで、ご理解をいただければなと思う。なかなかご理解いただけないとは思いますが。

県民F

私は日本全国の47都道府県が、我々がこれくらい防御はするんだよというようなことをやると、日本に仕掛けたら損するぞということになると思う。
だから、鹿児島県だけで防御することはできない、逃げることしかできない。逃げることはマニュアルで作っている。Jアラートが発令されたら、頭の中で、あるいは、体の中で覚えるところまでやっていく必要があるんじゃないか。
これは会派がどうの、全く関係ないと思う。

(伊藤議員)

決議文の話に関しては、会派の考えが一致したところで決議を出したところ。

9月議会の時にJAXAのプロジェクトマネージャーからいろんな話を聞いた中で、何千キロ離れていようと、日本のロケットは畳1枚を撃ち抜くことができる技術があると。原発でもどこでも狙える技術があると明言された。

ただ、北朝鮮のロケットにはそれだけの技術がない、だから怖いとJAXAの開発責任者の方が言われた。どこに飛んでくるか分からない。原発を狙ったら違うところに行ったと。まだ、そういう段階だということは、JAXAの方々が言っておられたので、情報として提供しておく。

(長田議員)

補足の補足になるが、基本的に外交・防衛というのは、国がしっかりとやっていくこと。県は警察。市町村は消防。

飛んで来たとき、市として県として、どのような避難をすればよいか、問題意識を高めるのが、市議会、県議会。

しっかりと危機管理という観点でやっていくべきだと。

(まつざき議員)

北朝鮮の問題については、本当に多くの皆さんが不安に思っておられると思う。

ロケットが飛んでくるようなことにしたらいけないと思う。そういう事態はどうしても絶対に避けないといけない。そのために、県議会では全会一致で、9月議会に経済的な圧力と併せて外交努力を、ということで求めている。私も賛成したが、今あったように、飛んで来たときの避難というの、今、それぞれの自治体で訓練を行っているが、やはり、そうならない努力を国に求めている。

会派の具体的なところの多少の違いはあったとしても、そういう事態は避けなければならないという思いは同じだと思うので、皆さんと共有しながら国に施策を求めていきたいと思う。

県民F

ソビエト連邦が崩壊したとき、ウラジオストックあたりの飛行場、まともに飛べる戦闘機なんか1機もなかった、原子力潜水艦は全部動かなかった。

それで、日本海のあるところに沈めてしまったと当時のニュースに出ていた。今の北朝鮮もそれぐらいの国なのではないかと思っている。

非常に怖いなと思っているので、県民に、もし来たらどう避難するんだぞというぐらいのことは教えてほしい。

(柳座長)

私どもも意見を持ち帰り参考にさせていただきたいと思う。

数年前、ある学校の先生と話をした。小学校の先生で、母子家庭の子供さんが14名いる。そこで悩まれるのは、教育の仕方をどうしたらいいかと。

家庭は夫婦揃って、朝晩飯、寝食を共にして家庭生活を送るわけだが、それを教育にどう組み込んだらいいか悩むと話があった。県議会議員に立ち上がった方も、シングルマザーという言葉を使う。

非常にかっこよく聞こえる。だけど、そうではないと思う。男女共同参画の時代とか、子育て支援とか、女性が働けるとか、非常にかっこいいが、それよりも、どうやって家庭を守るかが大事ではないか。

出水市を離婚が一番少ない街にできないだろうかという伊藤議員に話したことがある。これは個人の感情とかプライベート的な問題もあるから難しいだろうが、家族というのが崩壊している。そこをなんとかできないものか。

県の方としての取組、あるいは何か検討することができないかと。

(柳座長)

シングルマザーと横文字にすれば、違った捉え方をする部分もあるが、今、1人親の家庭が増えている。母子家庭だけではなくて、父子家庭も増えている。

私共は議会人なので、県議会議員の立場で直接的に言うことはできないかもしれないが、父親と母親が揃って子供を育てていくことが基本にあるかと思うが、いろんな事情を抱えているのが、今の社会ではないかと私は思う。

病気で亡くなったり、いろんなことがあって、一緒に居られなくなったという家庭に対しての支援ということで、国も一生懸命力を入れていると思う。

1人親だとどうしても収入的な部分、経済的なところで厳しくなってくる。

特に母子家庭というのは経済的にも厳しいと思う。鹿児島は給料もなかなか低いこともあって、生活がしにくい。就学支援の制度があったり、あるいはセーフティネットとして生活保護という制度があったり、こういったところを我々としては充実をさせていく、また、国がやらなければならない制度は、国にも意見を言い、国会議員との連携もまた強めていったりもするが、直接ということは、なかなか難しいのかなと思う。

(西高議員)

今、お話しがあった中で、離婚をしない、その形をどうやればできるかという部分、もう一つは1人親家庭の問題、それと、その子供のこれから先の話と、だいたい3つだったと思う。

今、離婚の原因、1番目は金銭的な原因。2番目がDV。3番目が浮気だそう。もう一つ、離婚の一番のこの原因の中で、分かれやすくなった原因というのが、母子の手当、そういったものが非常に手厚くなってきたなかで、増えてきている。

今、いかに離婚をしないか、やっぱり旦那さんの給料を上げるということだが、そこは、鹿児島県の経済事情の中でどうなっていくか分からない。

文教警察委員長として県内を回っているが、今、鹿児島県全体が学力が低いと言われている。その中で1人親家庭の子供達が特に低い。鹿児島県は民間の調査機関だけれども、全国で貧困率が3位と5位と2つある。各小学校を回ると3割の子供

がいる。子供達の学力向上に今、県教育委員会が進めている「早寝・早起き・朝ご飯」がある。学校の先生方が、準養護の家庭も含めて、各市町村で給食費の補助をしているが、それでもまだ、1割の子供が朝ご飯を食べられていない。

朝、集中ができないので、子供達の学力が落ちていると。

そういった子供達が、(将来)鹿児島県で高収入を得て、結婚して家庭を持ってもらう、ここが一番かなということで、今、中卒で通信教育に行っている子供達に、この子供達が一番結婚が間近となるため、別れさせないための、高校修了課程を取っていただくための方策を今、投げかけている。

それと、今言った子供達の学力を上げるために、朝ご飯を食べられるような家庭教育をいかにして学校で取り組んでいただくか、各市町村に呼びかけたいと思っている。これは市町村の教育委員会の問題だが、これからの子供達が家庭を持って、1人親家庭にならないようにしていくことが大事だということで、私たち文教警察委員会は取り組んでいるところ。家庭が壊れない、分かれぬ、そういった家庭にするための第一段階は、そういうことだろうと思っている。

それと、来年から小学校教育の中で、いよいよまた道徳が始まる。道徳が今からの子供達の大人になっていく過程では大事だなと、今までの教育では、これが欠落していたなと感じている。

海外にいる、働く日本人男性に聞くと、日本の今の子供達、若い人達に何が必要ですかと聞くと、もう、皆さん口を揃えて言われるのが道徳教育。

そういったことを含め、今、お話しいただいたような形がすぐ特効薬のあるものではないので、しっかりと県議会でも取り組んでいきたいなと思っている。

県民H

出水・阿久根・長島地区、人口7万人ぐらいに、産婦人科の先生が2名しかいない。その先生達への負担がすごい。今、娘が鹿児島県外にいるが、結婚して里帰り出産するとしたら、果たして出水で出産できるのか。公立の病院に産婦人科がないというのが、出水市の現状。

ますます都会に子供が出て行くんじゃないかという不安がある。その辺は、県議、県として、何か対応策というのがあるのかなと思って質問した。

(伊藤議員)

私も出水市に在住しているので、その件は重々承知している。

鹿児島県全体を見回したとき、大隅地区はもっと深刻な状況にあり、それに対応するには、高速交通の推進とかも必要。出水・阿久根・長島町併せて2名しかいない現状、高速体系が通じても少しまだ時間がかかる状況なので、ドクターヘリを使いながらという医療体制に現在のところなっている。

民間の病院が出水市に2つしかない。(今日は)阿久根、長島の地区の方もいる、そういう方々はもっと厳しい状況がある。鹿児島県内では、産婦人科医がいない地域もあり、県議会でもその対策をどうしたらいいか大きな課題となっているので、県としても医師の確保、それと鹿児島大学病院との連携をもち、地域医療に従事するお医者さんを育てようという施策も前々から実施をしているところ。それで産婦人科医になるということではないが、施策として鹿児島県も取り組んでいる。

(まつざき議員)

「県の施策としては」、というお尋ね。県は、産科医療体制確保支援事業を行っている。地域医療介護総合確保基金から市町村が新たに産科医や麻酔医を確保すれば、給料、手当、研修費とか、他のところから派遣してもら場合も派遣の費用を、県が1/3、国と市町村で1/2ずつ、基金は県が1/3、国が2/3。ただ、種子島と大隅地域ではあったが、残念ながら北薩では実績はない。産科医はリスクが高い割には診療報酬が低いという問題があり、診療報酬の見直しを含め、きちんとそういう部分も考えて引き上げをして産科医を確保していくという、国にも施策を求めていかなければならないと思う。

県内でも少し差があるにせよ、鹿児島県全体の課題であるので、県議会でも県や国に対して、安心して子供を産み育てられる環境を作るために、ものを言っていないといけないと思っている。

高校生 I

全体会で大学奨学金返済の支援のことを聞いたが、それを詳しく教えてほしい。あと、そのことを知らなかったが、何かで発信しているのか。

(松田議員)

80万円を試験を受けるときに渡す。人数は正確でないかもしれないが、500人は無利子で返済が必要。300人は鹿児島で就職して3年間経ったら返済免除。100人は最初から返済免除。これが、今、2年目、3年目ぐらい。

もう1つは、大学を卒業された方、今大学生の方が、鹿児島に帰ってきて、3年間就職したら、残りの日本育英会への返済分を県が代わりに返すということがスタートしている。

これは、県のホームページにあるので、見ていただき、また、すぐにダウンロードできるので、友達にも教えてほしい。

(柳座長)

大学、専門学校もそうだけれども、非常に教育費が高い。少子化の大きな要因と今言われているが、教育費が高いということは、若い子育て世代には、本当に大きな課題だと思う。

県も今、松田議員から説明があったが、そういうこともやっている。残念なことに、なかなか周知されていないと思ったので、私どもも今後も、せっかくこういう制度を作っているのだから、広く県民の方がこれを使えるように、もっと知らせていかなければいけないと思った。

そば県でこういう意見が出されると、私たち議員も改めて気付くこともある。

県民 J

出水市でボランティア活動をやっている、痛切に感じることもある。県と市の連携。県は県でいろいろ街づくりをやっている、そして、市は市

でやっているが、その辺が結構バラバラで、県と市が一緒にやってくれば、もっといいものができるのにバラバラで、市は県がやっていることをあまり知らないことがあったりする。

(伊藤議員)

私もそれを痛切に感じ、県議会に立候補して現在がある。私も県と市のパイプ役という形で頑張っているつもりではあるが、県議会議員になって市役所に半分、県庁に半分という形で活動している。市の施策をどうやって県が支援できるかということなどを常に考えながら動いているので、私も堀口議員もそうだが、2人で協力しながら、出水市のために何ができるか、阿久根市、長島町のために何ができるかと頑張っているところ。できる限り、皆様に分かりやすいような活動を通して、県と市を繋いでいければなと考えている。

<第2分散会>

県民K

日本の山はどこに行っても荒れ放題。昔は林業で食べていた人もいるけれども、これ何とかしなくちゃいけない。例えば、木の枝落としをやったり。田舎に働くところがあれば帰りたいという若者はいっぱい。東京は今(人口が)1,300万人、多すぎる。私は、小里議員にも「250万人ずつ北海道と九州に移すぐらいのことを考えろ」と言ったことがある。

出水もそうだが、日本電気、閉鎖してから何年になるか。固定資産税を10年くらいタダでもいいから、工場を誘致したい企業があったらどんどん宣伝して、出水に来てくれんかと宣伝した方がいいと思う。そうしないと、企業誘致も難しい。メリットがないとなかなか来てくれないと思う。

パイオニア、日本電気、中はガラガラ。だからもっと県議の人は宣伝して企業を誘致して、人間と働く企業が一緒に来てくれないと困る。

(柴立議長)

木材、林業を生業(なりわい)としているので、その点について少しお話しをさせていただきたい。今おっしゃっていた問題はよく分かる。林業で自活できる状況を作っていければ、山地に人も居着くということではないかと思う。

昭和40年代から昭和50年代にかけて、木材価格が1立方当たり今の価格の約3倍していた。それから木材価格は下がり、人件費は上がっていく訳で、なかなか林業では食えない状況が続いてきて、林業から離れていく方が大変多くなった。これも過疎化、高齢化の一因になっている。かつて出水には、出水製紙という会社があって、300人以上の方々が働いておられた。出水製紙もなくなった。

ただ、ここにきて、少しだが木材業界も上昇気流にきている。一つは木質バイオが注目されるようになった。電源のエネルギー源。もう一つは中国、台湾、韓国も含め杉などの輸出が増えきた。まだ中国では、日本の木材が建築材として使えない。

建築用材のいわゆる土台とかそういう用途、あるいは非常に珍しいが棺桶にも使っている。そういうことで少し輸出が増えてきて、木材価格が持ち直しつつある。

それから、山に対して国民の皆様が注目されるようになった。これは、自然環境CO2対策等における山林の役割が皆様方に認識されてきたということだと思う。そのようなことも含めて、少しずつ環境はよくなりつつあると私はそう思っているので、これからそういう方面に山で生活できるよう国としても予算を作っていただきたい。国が今、森林環境税を考えているので、これを地方に分散して地方にお金を入れていただきたい。そのことが山村の振興に繋がるものと、そう思っている。

ただ、昔と違い木材は建築材として1軒の家で20%位しかない。これはどうしようもない現実。これは化石製品とか色々出てきて木材に取って代わっていったという現状がある。私たちは、良い物を使っていただくという格好で破りたいと思っているので、今後とも努力をさせていただきたいと思っている。

(成尾議員)

企業誘致の問題、鹿児島県の大阪事務所が広島、中国、名古屋を管轄。郷友会の鹿児島県出身者の方々に鹿児島に是非作ってくださいと団地を示しながら誘致するそうだが、何が問題かという点、優遇措置はいらぬ、それよりも必要な人数がそこにいるか、その方が大事だと。始良にイオンができた。1,500人確保。今鹿児島県の最低賃金は700円ない、それでも上がった方。集める時にイオンは1,000円以上を出した。企業は来ても人がいないと出来ない、だから是非して欲しいのは人を確保してくれ、そしたら行ける可能性がある。こんなことを大阪事務所で聞いてきた。

今、ハローワークにしても若い人もそうだが人が集まらない。こういう状況の中で、なんとか鹿児島県出身の方々にまた帰ってきて貰うためにも、有能な人材を揃えていくことが今後大事だとしみじみ感じた。

今日は高校生の方いらっしゃっているが、地元の企業も結構優秀なところもあるので、見ていただき、よそだけではなくて、鹿児島の方が良いな、出水が良いなと思える企業になるよう私たちも頑張りたいと思う。

(瀬戸口議員)

今、議長が言われた林業、これは本当にもう環境の問題から大変な問題で、私共県議会でも一生懸命取り組んでいるところで、木質バイオそしてツーバイフォーあるいはALGの販売とか、これから恐らく欧米の方にもそういった製品が行くのではないかと思っているが、そういうことを見据えながら私共は切って、売れて、手入れをして、循環型の県民条例の立案を今8割9割ほど作り上げているので、条例を議員提案とさせていただいて、それをやっていく。

具体的に言うと、林家の皆さんが金を出さなくても国と県と市町村で切ったら全て地ならしをして植栽をして、5年間はまだこっちの方で見る、後を管理してやってください、実際にやっている地域が大隅あるいは大分でもあるので、そういうことを進めていかないとこれから先の山、日本の環境も遅れるのではないかと思っている。一生懸命取り組んで参りたいと思っている。

(中村議員)

先程ご質問の企業誘致の件に関して、県も企業立地課を作り、企業に鹿児島県へ

の企業誘致を新しい工場を作りませんかと一生懸命誘致しているところ。

実績でいうと年簡30社位企業誘致をしている、鹿児島県全体だが。今年度も今のところ20社位鹿児島県の方に話が進んでると聞いている。

先程おっしゃったように、私たちも本当に東京一極集中は心配している。本当に田舎からどんどん人手を取られているので、その人達をどうしても出水地区、阿久根地区に引っばってきたいという気持ちは本当に同じで、このパイオニアの跡地、企業誘致を私たちも一生懸命後押ししたいと思っているところ。

今、水産加工場が一つあるが、更に今年の10月末にマルマエさんという精密機械の工場の誘致が決まっているよう。ここでまた雇用が増えれば私たちも非常に有り難いと思っているところ。

明日、新たに西回り自動車道が開通して、物流が便利になれば、私たちも一つの売りになると思っている。出水地域、流通が便利だから是非来てくださいと言える一つの素材として西回り自動車道の開通もあると思うので、そういうものと兼ね併せて共に私たち地元の県会議員もこの地域に企業が来てもらえるようPRしていきたいと思っているところ。

県民K

次は原発について。福島原発未だに中途半端で、更地にするのも40年かかると言われている。放射性廃棄物は黒い袋に入れて一杯、穴を掘って埋めるとか言ってるが。放射能の中のセシウムは肝臓がんになると言うが、消えて無くなるのに放っとけば10万年かかるという。そんな原発を私は即とめて貰いたい。1日でも早く。ドイツはすぐに止めた。

下鶴議員 原発の即時撤廃をという質問をいただき、ドイツの例を引いていただいた。もちろん原発の安全対策はしっかりやっていかなければならないし、出水、そして阿久根の地域も30km圏内に入っているので、しっかり防護体制をとっていくことを県議会でも議論し、そしてまた行っているところ。

一方で、将来どうやっていくかは各党派で色々考えがあるが、ドイツは隣と送電線が繋がっているので電気を作れなくなったら、例えばフランスは沢山原発を持っているので、引っ張って買って来るという需給調整がしやすい。それに対し、日本は島国なので、電気は作る量と使う量が食い違くと大規模停電を起こすので、需要に応じた電気を作っていくかなければいけない。

将来的には、蓄電池をしっかりと作っていくということで、再生可能エネルギーをもっともっと進展させていくことに向け、今、県、国の方でも洋上風力とか色々なことをやっているが、一方で、現実的には国もだがエネルギー基本計画において原発依存度を徐々に下げていきながら、知事もおっしゃっているが、徐々に再生可能エネルギー県を目指すという方向が、妥当ではないかと考えている。

県民L

県道沿いに高尾野小学校、高尾野中学校がある。県道を使って毎日かなりの子ども達が通学をしている。中学校・小学校の近隣の県道には、残念なが

ら縁石が全くない代わりに、路側帯にグリーンのパイントを塗って、通行区分にしている。現在は色褪せてしまって、どこがどうなのか判らない。

今年、一部の約500m位を新しく塗られているが、今の感じでいったら、全部塗るのに7年掛かる。自治会長さんによると県の予算が取れなかった、とのこと。

確かに予算は大事。河川工事とか道路の補修工事とかで予算は取らなきゃいけないと思うが、まず身近な子ども達の安全の確保を考えてみた場合、このまま放っておいていいのか、と私は常に思っている。縁石を設けていただき、子ども達の安全を是非確保していただきたい。

(外園議員)

子ども達の安心安全、特に登下校の安全を守る、本当に1日を置かず早急にやらないといけない部分があるが、今、歩道設置を交通安全対策事業ということで、毎年11億円ぐらいの予算で信号機を付けたり交差点改良を行ったりしている。財源の問題もそうだが、グリーンベルト、速度30kmのグリーンロードとか、歩道についてはグリーンでやっているけれども、高尾野小学校と中学校のところの車線が(車幅が)3.5m(+3.5mで、大体県道は(車幅が)3.5m(+3.5mの真ん中に黄色いラインが入っている、するともう住宅が連坦して狭いところに歩道、ガードレールをしようとする、なかなか難しいところがある。

県内全体的に見たところ、歩道が未だないところは、車幅がより狭いところで、両側に住宅が連坦していると推測する。今日は振興局の局長さんもお見えなので、もうそれは予算の問題ではないので、しっかり地元の議員に繋いで、またわれわれも北薩地域の意見交換会を15日にやるようになっていっているので、取り上げさせていただき、また、現地を見させていただいて、グリーン帯の塗装を早くしてくれと、大してお金の掛からない問題なので、早急にやれるんじゃないかなと思っている。

県民M

私はイチゴ農家。産業としての施設園芸についてお尋ねしたい。

県議会には「かごしま食と農の県民条例」を作っていただいた。基本方針では「生産性の向上、高付加価値化を図るための栽培、技術、農業技術の開発と担い手の育成を効率的かつ総合的に推進します。」「地域の課題を明確にし、優良品種などの早期定着に向けて、現地の実態に的確に対応した普及指導を展開します。」となっているが、イチゴについては、県の内部資料で「農家面：経営が成り立たず、労働過重で離農の動きが出ている。農家経営は非常に逼迫している。産地面：農家数の減少、面積減少が著しい産地があり、産地の存続も危ぶまれる事態となっている。」とあり、経済連の野菜振興課の資料では「本県の鹿児島島イチゴの位置付けとして、課題は反収と単価の引き上げ、反収の引き上げが最大の急務」と言っている。

農家の声。さつま町の若い農家。当時、2人の小学生を持つさつま町でもトップクラスのイチゴ農家。「多くの人々から、若いから頑張れ頑張れとよく

言われます。私も頑張りたい。しかし、どこをどう努力すれば収量が上がるのか判らない。誰も教えてくれない。だから努力のしようがありません。」と言っている。

収量が低いのは九州でも鹿児島県だけ。著しく低い。年によって違うが、約半分位の売り上げと見て良い。なぜこういうことが起きてしまうのか、このことを県議会の皆さんはご存じなのか、あるいはどう思われるか。

これ、解決するのに予算はいらない。試験をする必要もない。ただ植物性に基づいた増収対策を教えればそれで済むこと。しかもそれを県の農業試験場で昭和43年に言われている。なぜ、これほど長い間放置されてきたのか。鹿児島県の農林水産予算は日本トップクラス。北海道に次ぐ金額を県は使っている。お金を使いながら、ちゃんとした方針も作りながら、なぜ、結果が出ないのか。

何とかこの若い農家を何とか助けてやっていただけないだろうか。

(瀬戸口議員)

私も専業農家。施設園芸について大変貴重なご意見を頂いた。

鹿児島県の施設野菜がなぜ定着していかないかという話であったと思うが、路地と違うところは、質を高めていく、また反収を上げていく、販売をやっていくということ、これを私共は県民条例も作らせていただいた。

さつま町のイチゴの動向等も私も前に行ったことがあるが、どんどん止めていって無くなっていく、これを私共県議会としても県の振興としてしっかりとやっていかななくてはいけないと今感じている。

やはりそこには高校、農業大学の指導方法、そして農業改良普及所あるいはJAの技術員等々、全く変えていかなければ、反収が一反当たり半分も取れなくては到底生きていけない。私共県議会も今日出されたことについてはしっかりと委員会等で、私も産業経済常任委員長をさせていただいているので、それらについて試験場あるいは農地整備の方にもしっかりと現場の声を届けていくようにやっていきたいと思っていますところ。

また、農家の皆さん方プロの方々と私共委員会と意見交換をする場、視察をする場を設けているので、現場を地元議員と一緒に頑張って勉強させていただいて、何をどうしたらいいかということ現場から聞いて反映をさせていきたいと思う。

県民N

出水市と薩摩川内市はアングルバスというか、最寄りの市役所や駅から200円乗り放題がある。阿久根市にはそういうバスがない。せめて阿久根市も市役所を出て広域医療センターまで、南国交通バスが走っているバスが少ないから、それをもうちょっと阿久根市も力を出して。

愛知県にもアングルバスがあって瀬戸市役所とか巡回バスがある。

そうすれば阿久根市も良いなと思う。

(中村県議)

コミュニティバスのご要望。阿久根市の中でコミュニティバスが少ないということ、コミュニティバスを回すのは基本的には市の管轄。

市が管轄のコミュニティバスを回すかどうか、これは採算性の問題もある。民間がするのか、行政がするのかというところで、色々皆さん悩ましいところ。中山間地域、過疎の地域の方々の交通の便が悪いというのは、私たち県議会もよく分かっていて、県議会の中に政策立案検討委員会という委員会があって、中山間地域、過疎の地域をどうやって存続させるかということを経験の一つとして、交通弱者の方々にどうやって便利な生活をしていただくか、県も全く動かないというわけにはいかないのでは、という議論をしているところ。

今丁度、議論の最中だが、コミュニティバスに関して市の事業ではあるが、県もどうやって後押ししていくのか、助成金とか、制度とか県議会の中でも審議、議論をしているところで、同じような共通の認識は持っている。

非常に不便な方々が、高齢の方々が特におられるとされているので、これから県議会の中でも委員会を中心に話を詰めて、県への政策提言に繋げていけるかどうかという段階。しっかり審議をして、今承ったことも実現していけたらと思う。

県民〇

漁業者に対する県の姿勢をちょっと教えて欲しい。鹿児島県は海に囲まれてどこも漁港がある。その中でこの頃魚がない、という話を聞いたことがあるだろうか。恐らく今年魚は殆ど釣れない。友達が大きな船を持っていたが、手放した。皆さん、なぜ魚がないのか考えたことがあるか。

魚が子どもを生む場所がない。藻に魚が海の中で産み付ける。それがないから産めない。私は昨日も行ったが、一匹も釣れない。今までは食べる魚が大体15、6匹は釣れていた。

もう今年も、船を手放した、そういう深刻な事態に県議の皆さん県職員の皆さんは、何を考えてこうして県議会を開いているのか、私にはちょっと理解できない。

私が県議だったら、とことん突き詰めて、海の中まで調べる。長島のブリとか、自分達で子を育てている訳だから、毎年平均した年収というのは取れる。でも魚を釣ったり、網で獲ったりして生活を維持している人は、魚がいなければ生活が出来ない。

(堀之内議員)

あなたのおっしゃることは、よく分かっている。

県議会でも水産振興議員連盟というのを立ち上げて、その会長をさせていただいている。なぜ、魚が少なくなったか、おっしゃったとおり、藻場が磯焼けで殆ど魚が埋める状況にない所があちこちに見られる。

県の方でも磯焼けの対策として、藻場の造成や魚礁を入れるとか色々やっている。ウナギではシラスをどのように確保していくか、このことも県議会でも色々努力をさせていただいている最中。

急に魚が増えるような対策は無理だとは思いますが、5年先10年先を見越して、県議会も今の現状を把握しながら、対策に一所懸命頑張っているのもうしばらく時間の猶予をいただければ有り難い。

県民P

私は聾啞者、聞こえない。施設に入ったりコミュニケーションが取れなくてとても困っている、苦しい思いをしている人が沢山いる。
手話言語条例を制定しているところがたくさんある。手話の普及を図っていきたいと思う。鹿児島県としてもご検討をお願いしたい。

(下鶴議員)

手話言語条例、条例なので県で定めるもの。確か島根とか定めていたのではないかと思う。今ご提案いただいたとおり、条例制定について検討する必要があると個人的には思っているのも、今日、来られた方々もその条例について、認識していただいたと思うので、持ち帰らせていただいて、議会の中で議論を深めて参りたい。

(宝来議員)

手話言語条例のことで補足。4、5年前に鹿児島県としては意見書が採択されている。全都道府県で意見書を採択し、その後条例化されていないというのが現状。
我々は、議員団として条例を作る機能を今有しているのも、議員側か行政側か作るのかは慎重に議論して前に進んで行けたらと思う。各市町村でも条例化されているところも出て来ているようなので、その辺も見据えて取り組んで参りたい。

県民Q

国道398号線の黒瀬戸大橋の阿久根方面に向かった人家のある付近から約500mの間の回廊及び歩道の設置をお願いしたい。
昭和49年に黒瀬戸大橋が開通してから43年、無料になってから25年。この国道は国道とはいえ県管理道路。天草長崎への車の交通量が多い、特に長島町の地域興しによるイベント等で、年間を通して通行する車両が多く、カーブのため見通しも悪く、危険で事故もたびたび起きている。
現在、阿久根市が県のご協力も頂きながら、下の梶折花公園の整備工事を進めている。国道から公園に通ずる道路は阿久根市の市道で、入り口の交差点は国道を挟んで上も下も広い県有地。隣の民間の飲食店の出入口もあり、国道389号線の最も危険な場所だと思っている。
是非現場を確認いただき、回廊と歩道を作ってほしい。あの付近は歩道がないから危険で歩けない。私たちは、県政になかなか声を届けることが出来ない。このような機会を作っていただいたことに感謝し、是非私共の声を県政に届けて欲しい。

(中村議員)

ご提案いただいた案件は、今までも市議会の皆様方と何度も協議を重ねてきている内容で、内容は充分認識している。

歩道を設置して欲しいとおっしゃったのは黒瀬戸大橋から梶折花の入り口に係る路線だと理解した。その歩道に関しては県の方とも協議をしているが、なかなか歩道の設置は県の方が厳しいということ。

歩道を設置する場合は通学路を優先的に設置するというのが県の方針で、なかなかこちらの声も届かないというのが現状だが、観光地の一つの長島の渦潮パークがあり、梶折花公園がありという二つの観光地を結んで散策をして欲しいと考えているところで、歩道があれば本当になお良いなと考えているところ。

ただ、今の県土木部の回答では歩道の設置は難しい。一つ考えられるものとして、国道の線形が悪い、カーブが多くて線形が悪いので、線形を根本から変えて貰いたいという要望を挙げ、線形改良の中で歩道を付けて貰うというのが、一つのアプローチかなと考えているところ。

これを県がうんと言うかどうか判らないが、それも含めて少し考えて参りたい。

それから、梶折花公園の入り口の所の結節点の所を広げて欲しいということだが、県の方で作った梶折花公園であるが、現在は市の管理で、そこにアプローチする道路も市道。それが国道389と結節しており、結節点が県の所有地ということであるが、道路の管理として原則は市道の管理をする市が幅員を拡げることが大原則ではあると理解している。

ただ、県の事業を用いて梶折花公園の整備をしているので、そこへの出入りはこれから多くなるのかなと思っているが、現状、県の回答としては県道を走行する中で結節点を拡げる必要性は認められないという回答が来ており、出入りが危ないというのであれば、別なアプローチをしなければならないと思っている。

梶折花公園を県の事業で整備している、そこからもっと南の方に別な観光地を作り、先ほど申し上げた長島、阿久根それを点々と観光地がある中を点を線で結び、その線の道路をしっかりと整備して欲しい、というアプローチが出来るのではないかなと思っているところ。なにぶん、土木と観光という二つの所管に分かれるので、県の方でも土木と観光、二つの所管がしっかりと連携をとって貰って観光地作りの一環として道路が改良できないかをお願いしていきたいと思っている。

いずれにしても、市役所、北薩地域振興局、県庁の土木、観光の方々としっかりと話を詰めながら、実現に向けて、どれくらい時間が掛かるか判らないがしっかりと進めていきたい。

県民R

今、甌架橋を建設中。何年後に完成。また、私たちは甌の次は獅子島へというキャッチフレーズで頑張っている。

また、色んな形で御協力いただくが、地元の先生方また今日いらっしゃる県議の皆さんに是非ご理解いただきたい。

(中村議員)

私は、どちらかというと県民Rさんのサイドに立って、県会議員の方々にお願い

したいと思っている。獅子島架橋に皆様是非とも御協力をいただきたい。

(外園議員)

甌島架橋については、20年間ずっと陳情して、やっと開通する運び。橋長の長い橋というのは本当にボリュームがありお金が掛かる。

それと同時に、桑鶴議員が会長をしている錦江湾に橋を架けようという大きな構想もあり、獅子島も前からそういう話もあるので、絶え間なく要望活動をしていただき、三県架橋を一生懸命今やらせていただいている。国の方もまた小里先生の方も一生懸命やって、熊本の方も精力的にやって参った。

西回り高速道路がいよいよ全線開通、そして大隅縦貫道、南薩縦貫道、この縦貫道も結構近い将来推移すると大規模な工事というのが鹿児島県内でも少なくなってくるので、是非要望を続けられて中村先生を中心にやらせていただければ必ず実現すると思う。

四国の県会議員が明治の頃から四国に橋を架けようと夢みたいな話をしていたら、四国には3つ橋が架かったので、そういうことで要望をずっと続けてほしい。

<第3分科会>

高校生S

最近、高校での授業でアクティブラーニングと言った授業があるが、鹿児島ではこういった教育を進めているのか教えていただきたい。

(向井(た)議員)

アクティブラーニングという言葉は、昨年から主に使われている新しい教育課程で、教育課程は5年毎に見直していくが、来年に向けて、小学校・中学校が、その後高等学校で、新しい教育課程の学習指導要領が出てくる。

その中で新しい教育方法として、アクティブラーニングという言葉が使われている。自分で考え、調べ、自分が学習することを選んだりして、ただ読んだり、書いたり、計算したり、理科の知識を広げたりだけではなく、自分自身が積極的に課題を探して活動していく。今も課題研究とか、いろんな形があるが、それを更に自分自身で学びたいことを探してやっていこうという取組が強くなっていく。

そこを重視していこうと、学習指導要領の改定の準備が進んでいると思っていたら、できれば良いと思う。

県民T

医療費削減ということで、国の方も一生懸命いろんな策を打っている。その中でジェネリック医薬品を推奨しよう、使用量を増やそうということで、国も厚労省もそれを進めており、我々薬局もジェネリックの使用を進めよう

と、患者さんにも話をして、納得していただいて、ジェネリックにしている。

ジェネリックというのはご存じだと思うが、特許の切れた同じお薬が安くなった医薬品、それを推進している。県としても、市の行政もそうだが国庫の問題もあるだろうが、もっと具体的に県民なり市民なりに、啓発をもっとしていただける方策があるのか確認したい。

(大園議員)

県も保健福祉部でジェネリックの推奨をしている。各病院等も多くはジェネリックを推奨されて、だいぶ利用されていると思う。

薬というのは、例えば、風邪を治すために一番最初に出来た薬が、その後のいろんな研究によって、同じ成分を持った薬が後発品として別の名前で出る。

Aという作用を持った薬と同じような成分、ほとんど内容的に同じ成分の薬がB・C・Dといっぱい出るので、病院も我々も薬を選ぶときに大変迷う。

どの薬をその病院で採用するか我々は選択する場合があるが、今、医療費が大変高くなっているから、それを抑えるために後発品の薬を使う。最初に出た薬が100円だとすると、後発品は60円、50円と安くなっていく。そういう薬が使われるようになっている。

極力後発品の薬に変えましょうという病院もあれば、勤務している先生によって、後発品をひかえる先生もいる。県の方でもできるだけ後発品のジェネリックの薬に換えてくださいという指導はしている。

成分表示で処方箋に元々の薬の成分を書き、それを病院でも薬局でも、薬剤師の先生がどの薬にしますかと、選択権を与えるようになっているので、最初に出た薬にこだわる先生も少なくなっている。

県全体として、日本全体としても、医療費を削減しようとして、後発のジェネリックの方向になっているので、義務的にすることは出来ないが、県の方では指導している。

先だって大島の県立病院に視察に行ったところ、県立病院でも7～8割、病院長含めて、県の県立病院課もできるだけそういう方向性にしてほしいとあるので、病院でもそうなっている。国の方針がそうなので、極力そういう方向性で進んでいるかと思う。ただ、それを命令的には出来ない部分があるので、そこはご理解いただきたい。

病院等については今説明したとおりだが、患者さんが後発品の薬への不安もあるので、大変安全な薬であると県民の皆様方に県の媒体やいろんなものを通じ、これからできるだけ、我々も保健福祉部を通じて県民の皆様に分かるように広報していきたいと思う。

県民U

青年会議所では、子供達のために青少年育成事業を行っている。今年も親子の絆をテーマにした事業を行った。鹿児島県における教育環境の中で我々民間団体にしか出来ない教育事業というのがありますが、実際どういったものが

求められているのかあれば教えていただきたいと思います。

また、我々民間団体は、どうしても少ない限られた予算の中である事業になってしまうので、それに対する助成等々もあれば、教えていただきたい。県内の現状を教えてください。

(郷原議員)

11年ほど青年会議所に所属させていただき、いろいろと青少年の育成事業を委員長として行わせていただいたという経験もあり、今のような御意見は、本当にもっともだなと思うところ。

鹿児島県にもいろいろと事業があり、教育委員会の所管の事業としては今年から知事の肝入りで始まった鹿児島青年塾が行われている。鹿児島青年塾というのは、地域でいろいろ活躍されている方、県外で活躍されている方達を講師として、お招きして、どういうふうに生きていくのが良いかなど、今年から始まった。これまでも長い間続けられているのが、県民生活局の所管する事業で、地域塾というのがある。それもやはり同じような形で、似たような形の事業とは思いますが、行われている。

それに対するいろいろな助成とか、NPOとかへの助成があると思うが、それ以外には、自分自身も事業した時に日本財団から助成をいただいたことがあったが、そういうところを通じてお金を獲得していく形かなと思う。

それ以外には、環黄海の青少年派遣事業、鹿児島から直行便がある台湾・ソウル・上海などに若い子供達を派遣して、3泊4日で体験をする事業やシンガポールと香港に1年毎に行くという事業、それは15名位行っている。地域に根ざす様々な事業、それから国際感覚を育む事業、そういった事業があり、県のホームページとかいろいろなところで載っていると思う。

そういう事業の拡充にもしっかりと訴えていかないといけないと思っている。

(田中議員)

川内JCのOBではないが、川内JCの取組という意味で紹介。今の子供達は、私はもう60を過ぎているが、スマホというか、仮想との接点も多い。

求められているのは、具体的な自然体験とそれから手を動かして物を作るということで、こちらのほうも交流はあると思うが、川内JCでは甕島への子供達の派遣研修、当然、1泊するが、そういう具体的な自然体験と、これも毎年されているが、川内川の広い河川敷での凧揚げ大会、子供達を含めて作りながら飛ばしている。そういうことがこれからも求められると思う。

あと最後、私の意見だが、ちょうど明治維新150周年が来年、それからNHK放送の大河ドラマ、来年が「西郷どん」、言わんとすることは、古里鹿児島の我が古里の歴史が、非常に今年・来年見直されるということ。

自分達を含めて、子供達にも自然体験を含めて、出水・阿久根・北薩・川内の歴史に触れるような具体的な事業とかイベントが必要であるし、自分らも含めて、県と協議をしていきたいと思っている。

(大園議員)

子供達が不登校とか、学校に行かない子供さんも多くなっているということで、

私の知っている人はNPOでフリースクール的な子供達を育成する学校の事業を立ち上げ、教育委員会もフリースクールとして認めている、それもNPOとして。

そこにどれくらいの援助、補助があるか分からないが、鹿児島でもフリースクールの存在というのが大きいので、今の不登校の子供さん方を社会に出して行くため、大変良い取組をされているところも多いんじゃないかと思う。

(郷原議員)

先ほどNPOの助成事業があるということだったが、地域貢献活動サポート事業ということで、昨年度は42件に1,964万3千円、1件あたり50万円を上限として助成をされたということで、資料を持っていたのでご紹介させていただきたい。ちなみに79件の応募中42件が決定。

県民S

学校では18歳になったら選挙権が与えられるということは言われるが、模擬選挙はまだやっていない。友達も政治に興味を持っている人もいれば、持っていない人もいる。

若い世代から鹿児島とか日本、大きくいえば変えていかないといけないと思うので、鹿児島から選挙権とか選挙に興味を持たせることは大事と思う。

(永井座長) それに答えられるように、また頑張らないといけない。

県民V

商工会の中でも高尾野は前回のオールドカーフェスティバルで2~3万人のお客さんが来られ、その中で10数mの高さがあるパトレーバーというロボットを呼んだ。それは市と県から助成・補助金をいただき、残りはクラウドファンディングで集めた。県外からも市外からもお客さんがすごく集まって、大成功のイベントだった。

もう1つ高尾野のお祭りでの市の市という、鹿児島の3大市の祭りがあり、2年前「くまもん」を呼ぼうとして、熊本県からは大丈夫だと言われが、2万円弱の交通費が予算として出せない。中の市というのは10何万人~12万人集客がある地元の祭りだが、商工会青年部事業としてやってる中で、予算を全くいただけないが、10万人規模のお祭りなので、県の方から盛り上げるためのお手伝いをしていただけないかなと思う。

(堀口議員)

野田の時も行かせていただいた。オールドカーも見に行った。中の市は私地元。この頃なかなか市を見て回れない。今、受けるほうなので見に行く機会がない。

自宅でお客さんと呼んで、蕎麦を食べさせて、それが本当の市の始まり。そこから始まって、だんだん店が出だして集客が広がった。

高尾野のこれが今は3大市の1つになっているけど、今、先ほど言われたように

1日5万～6万人見に来られる。もう息も出来ないくらい。2日間掛けて、商工会の皆さん大変苦労されている。

この事業に関して助成金、昔から言われているけど、もう少し何とかならないのかという事であるが、今ここに、前の出水副市長の椎木さんも来てらっしゃる。その時も、手伝いには行かれるが、お金は出せないよ、という感じなので、できるだけ皆様方の活動を助成できる事業ができればと思っているので、いろいろとこれから相談してみたい。

(池畑議員)

中の市で色々やるのに、県を含めて何か補助事業・補助金が出ないだろうかという趣旨か。いろんな国・県の事業があるが、市を中心として市が開催されるから、それに対して補助金をくださいというのは、なかなか堀口さんが言われたように厳しいのかなというのがある。その市に便乗して、地域の方が町づくり・町おこしのために、こういう事業をやろうよと何か企画されて、ストーリーを作られれば、対象になるんじゃないかと思うような事業があるので、またこれから堀口議員の方に相談されれば、おそらく何か対象になるんじゃないかと思うので、その辺をまた今後、研究されてみたら良いかと思う。

県民V

今、商工会青年部の地元有志で集まって、薩摩剣士隼人の外山 雄大 (とやまたけひろ) 監督と一緒に、タカオノダーという御当地ヒーローを作り、マチテラスとタイアップさせていただいて、タカオノダー、イズミライ、カーク将軍というのを作り、薩摩剣士隼人の本編で3回放送させていただいている。

あと4話続く予定だが、そういう事業を商工会は青年部で、皆さん仕事を持った人間の中でやっている。

高尾野小学校の前の通りは中の市がある関係でガードレールが無く、堀口県議に緑のラインを引いていただいたりしている。親の会で子供達の交通安全とか、そういう高尾野の地元のお金の掛からないイベントとして、今100～200万弱のお金をもってしているが、そういうもの何かお手伝いしていただけることとかないかと思う。

(永井座長)

先ほどの趣旨と、池畑議員がお話ししたような形で、良い企画だと思うので、地元の堀口議員・皆さんと連携取りながら、当てはまる事業をお互いでキャッチボールしながら進めていくということで、ご理解いただければと思う。

県民W

市内在住で介護事業を運営。片方、私生活では、子供を4歳と1歳の子育てをしている。

とりわけ子育てのことについて、1つお尋ねしたい。今は2人目の子供を授かり、子供が2人。子育て世代の同級生の方々と話をすると、やはり3人目の出生をどうするか、経済的な負担を現実的に考える。市町村には、財源を持つ市町村、そうでないところ差があると思う。

県として市町村の差がある状況の中に、鹿児島県全体として子育て、そして出生率の改善、大きく見れば人口減少の対応とか、そこまで考えが広がるが、鹿児島県の方針・施策として、何か市町村と連携した子育て支援について、どのような協議がなされているのかお聞きしてみたい。

(ふくし山議員)

基本的に県として具体的に言うと、なかなか難しい、無いといった方が良いかもしれない。市町村間でそれぞれの措置の仕方が違うことも大きな課題で、財政的に余裕のあるところは出来るけれど、そうでないところは出来ない。それぞれの市町村なりで、自治体で出来ることを何か取り組んで、例えば、1ターン者を増やすとか、Uターン者を増やすとか、いろんな取組をしている。

国が今考えているのが、幼児教育の無償化という話。これはずっと昔から言われていることでもあるわけだが、これをどういうふうにするのか。例えば、幼稚園でも今だと、第3子から安くしたり、無償になったりというのがあつた。それを1子から実施していこうとか、国が一定の統一した方向性を示していく必要がある。

なかなか各都道府県だけで、全体を統一するのは難しいという部分がある。国と市町村の間で、いろんな調整をしたり、凶ったりというのはあつたが、その問題。

それからこれは、具体的に申し上げることは出来ないが、乳幼児医療費の現物給付、いわゆる窓口負担を無くしていく動き、国はこれまでそういう取組をしたところは国保を減らすというペナルティーを掛けていたため、なかなか踏み切れなかったが、厚労省へ議論してそこを撤廃していくという動きがある。

おそらくこの、子育て問題・高齢者の問題・学校教育の問題、この辺のところは、全体の見直しみたいなものを国全体がなっていかなければならないんじゃないかと。

今は、とりあえず子供さんのことに注目が集まったりしてるが、それだけではバランスが取れなくなっていくので、全体を見回したり、大きく見れば社会保障の1つ、そういった位置付けでここをちゃんとやっていく。そんなことを私達は、国に求めたり、議会の中で議論をしっかりとやっていく必要があるだろうと思う。県が独自に市町村にお手伝いをして、不足分を補うことが出来たら、それに越したことはないが、それは非常に難しいという感じ。

市町村によってもだいぶ温度差があり、なかなか直ちにご期待にお応えすることは出来ないが、努力はしていかなければならないし、そういう方向で日本は進んでいかなければならないと思つているところ。

(永井座長)

国の方向性として全世代型の社会保障制度をどう押し進めていくか、そのことを早急に進めていくというのが一番の論点だつたと思う。そういう事を大きな課題として市町村と県と、一番は国の指針が近く出てくると思つるので、そこをしっかりと充実していけるように頑張っていきたいと思う。

市内のいろんな所を現状を見たり、或いはいろんな人の意見を聞いたりして、毎日回っている。

その中で大きく2つ気が付いた。1つは、子育て支援の関係。小学校・中学校・幼稚園の近隣に若い人たちが新築をいっぱい建ててくれている。その奥様方に何か要望はないかと話をすると、保育園代・幼稚園代が高い、できれば1人目から補助していただけないか。それから、給食についても多子世帯の補助とかあるが、できれば1子からにしてもらいたい。それが1番平等、公平・平等でありがたいと。ただ、財源があればと思っており、そういう事がありますというご紹介。

もう1つは、空き家が非常に多いということ。これはどこも共通だけれども、少子高齢化で子供さんが同居していないところが空き家になっていく。

まだ、新しい純和風の、枯山水とかあるような立派な和風・本格和風住宅が、空き家がたくさんある。これを何か活用できないかとずっと思っている。

今、地方創生の2本柱の中に人口減少・地域経済の活性化というのがあるが、人口減少の対策にそういった立派な空き家をこれからも何十年も住めそうな空き家を活用できないかと思っている。

それは私が思うに日本版CCRCという名で言っており、まだ設計できてないけれども、これも財源が非常にいる事業だと思うが、いわゆる地方の都市・地方の町にとっては非常に活性化に有意義、良いツールだと思っているので、鹿児島県は福祉産業も結構あり、活用できる場だと思っているので、そういった話があれば、どんどん進めていただきたいと、要望ということでお願いしたい。

(ふくし山議員)

出生率日本全国1位を続けているのは、徳之島の伊仙町というところ。2倍をずっと超えている。今、県民Xさんがおっしゃったように、実は、ここがどういう事をしているかという、1つには日本版CCRCも最初は、その批判もあったりした。都会から高齢者を地方に送って、後の負担が大きくなるだけじゃないかと言われてたけれども、ここはそんなケチなことは言わないと、けっこう最近の高齢者は元気だから、どうぞ来てください、というその構え。それから、空き家の問題は、少し市で補助をしたりして改築をする。改築をして人が住めるようにきちっと手立てをすると、なんと高齢者が増えたんじゃないかと、若いご夫婦とか、Iターン・Uターンであったり若い人たちが増えて、それに伴って子供達もまたいっしょに増え、或いは、そこで誕生していくというようなことが起きていて、伊仙町は財政は厳しい厳しいと、今も町長さんは怒られながらも、徹底した住宅政策をやっている。だから、新しく建てることもあるし、古い住んでいない家を改築費をいくらか補助するので、改築をして貸していただだけませんか、という取組をしている。そうすると、これが何と借り手が沢山出てきて、場所によっても地域によっても若干違うかも知れないが、そういった取組が思った以上の効果を出しているという話を伺った。

実際の構えというか、そういったものを密かに伝わるようにやっていくという。

その中の1つのツールとして、そういうものがあるということだったんじゃないかと、報告というか、参考になればと思い申し上げた。

(堀口議員)

今、空き家のことについてあったが、宅建協会、出水市にある。相談をしている。もちろん宅建協会の方もいろいろ勉強されながら空き家対策も一生懸命やってらっしゃる。自治体、執行部の方も、いろんな業界と連絡を取りながらやっていかなければいけない。

子育てのこと、この出水地区で妊娠・出産・子育て、これがしっかりできるような形になっていけば、空き家に対してのIターン・Uターン、帰ってくるんじゃないかと思っているし、今、皆様方高校生の皆様方ができるだけ出て行かない、その考えも、地元で企業、働く場所、大学、専門学校があれば良いとか言われる。若い人達、地元でそういう学校があれば地元に住みます、その後、働く場所があれば地元に残ります、という話になってくる。

今、皆様方、新聞で見てらっしゃると思うが、NEC跡地を知っているか？分からないね。お父さん方がNECなどに勤めてらっしゃったと思うが、ここがパイオニアとしてつぶれ、そこでどんと人口が減った。出水市の場合、そこで働いていた方々、家を造っていた。ところが、すべて空き家になってしまった。若い人達が家を造っていたが、働く場所が無くなったからそういう事になった。

今、マルマエという会社、高尾野に本社があるが、それが、NEC跡地を買収し、そこに新しく本社を建てる。110名位、従業員を増やしていくという計画もあり、そのような形で地元の方の企業が頑張らっしゃる。

それと、新幹線で人の交流が増えた。今度は、西回り高速自動車道、これによって物流が増える。こちらから都会に持って行く品物、そういった物の輸送がすごく早くなってくる。出水にまだまだ魅力があると企業が入って来やすい。ということは、皆様方が仕事を都会に求めるんじゃなくして、地元で仕事ができると。

そういった方向で今、夢がある。出水市にそういった希望を持って、皆さん方も勉強しながらお父さんお母さん達と子育ての事に関してでも、親子の関係の絆でもお話をさせていただきながら、やっていただければ、出水地区がもっと夢のある希望のある地域になると思う。

空き家対策とはちょっと違ったところに走ってしまったけれども、是非、夢と希望を持って、皆さん方、勉強していただきたいと思っている。